

学習ポイント 1

意味の近さと対照を文の中で捉える

言葉どうしの関係を知ると、説明や言い換えがしやすくなる。似た意味・反対の意味を確かめ、文の中で使い分けよう。

目標 類義語と対義語の関係を見分ける。／文中の意味に合う言い換えや対義語を選ぶ。／類義語にも使い方の違いがあることを説明する。

類義語は、意味の近い言葉

類義語は、意味が似ている言葉どうしの関係。読みや字の形が似ているかではなく、何を表すかに注目する。まずやさしい言葉に言い換え、共通する意味を探そう。

例1 『工夫』と『考案』は、よい方法などを考え出すという点で意味が近い。

例2 『欠点』と『短所』は、よくないところ・劣るところを表す。

例3 『継続』と『続行』は、途中でやめずに続けるという点が共通する。

対義語は、比べる観点をそろえる

対義語は、反対や対照の関係にある言葉。同じ物事を同じ観点から比べたとき、どちら側を表すか考えよう。話題が関連しているだけの二語とは区別する。

例1 時間の流れでは『開始』と『終了』。

例2 状態の違いでは『安全』と『危険』。

例3 『努力』と『成功』は関連していても、反対の意味ではない。

文の中での意味に合わせる

一つの言葉に複数の意味があると、反対の言葉も文によって変わる。単語だけを見て決めず、何について述べた文なのかを確かめよう。

例1 『背が高い』の反対は『背が低い』。

例2 『値段が高い』の反対は『値段が安い』。

例3 『責任が重い』と『責任が軽い』では、重さではなく責任の大きさを比べている。

学習ポイント 2

意味の近さと対照を文の中で捉える

抽象的な言葉は具体例で理解する

日常の具体例に置き換えると、抽象的な語の違いがつかみやすい。定義と例を行き来し、話合いや説明で使ってみよう。

例1 『具体的』な説明は、実物・例・数字などを挙げてはっきりさせる。

例2 『抽象的』な説明は、いくつかの物事に共通する性質を取り出して述べる。

例3 自分の感じ方を基にした『主観』と、個人の感じ方から離れた『客観』を区別する。

似ていても、いつも交換できるわけではない

類義語でも、使える相手や意味の広さ、言い方の強さが違う場合がある。言い換えた文を最後まで読み、自然で、元の意味が伝わるか確かめよう。

例1 『美しい』と『きれいだ』は景色については意味が近い。

例2 『きれいに食べた』には、残さず食べたという意味がある。『美しく食べた』では同じ意味にならない。

例3 同じ語を繰り返したくないときも、意味が変わる言い換えは避ける。

言い換えるときは文の形も整える

熟語に言い換えると、『する』『な』『に』などを加える必要がある。言葉の関係を説明するときは、似ている点や反対になる点を具体的に述べよう。

例1 『内容を詳しく説明する』は、『内容を詳細に説明する』と言い換えられる。

例2 『問題の仕組みは単純だ』の反対を表すなら、『問題の仕組みは複雑だ』とする。

例3 『似ているから』で終えず、『どちらも、細かいところまで分かるという意味だから』のように説明する。

使い方と参考資料

取り組み方・表記の基準・参照資料

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順に取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

中学2年生の基礎～標準を中心に、既習事項の復習と文脈に応じた使い分けを扱います。全語が全国共通の中2新出事項という意味ではありません。

罫線は10mm間隔です。解答欄の番号や表示に合わせて答えなさい。余った行は空けて構いません。

本教材では、学習用の標準的な表記を練習します。辞書に認められる異表記をすべて解答に挙げているわけではありません。言い換え・別読・送り仮名は、各問の解答と採点基準を確認してください。

設問と例文はオリジナルです。特定の入試の出題頻度を示す教材ではありません。学習範囲や語義・表記は、次の資料を参照しました。

1 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第2学年・語彙

2 漢字ペディア『短所』

3 漢字ペディア『消極』

4 漢字ペディア『偶然』

5 漢字ペディア『平易』

6 漢字ペディア『丈夫』

7 漢字ペディア『微笑む』

8 漢字ペディア『原因』

資料確認日 2026年10月12日。資料名から参照ページを開けます。